

令和 7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

明德中学校区 校番 20 学校名 呉市立明德中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	授業改善の推進	① 主体的な学びを実現する授業づくり	指標①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると考える生徒の割合が89%であり、目標値を達成していない。小中一貫教育の取組や授業交流を通して、教員間で「めいとか・トライ」の理解を深めるとともに取組の深化・向上を図る必要がある。 指標②学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直して、次の学習に繋げることができていると考える生徒の割合が91%であり、目標値の90%を上回った。引き続き、個の実態に応じて丁寧な複数支援を行う。また、「学習フリータイム」の充実を図り、生徒に「分かる」「できる」を実感させる。	生徒の主体的な学びの更なる充実に向けた「めいとか・トライ」の取組を推進する。また、生徒の実態に応じた支援の在り方に重点を置いた授業改善を引き続き図っていく。
**	自己有用感の育成と防災教育の深化	① 個を大切にした支援の充実 ② いじめを許さない学校環境づくり ③ 自分の命は自分で守る力の育成	指標①自分にはよいところがあると思っている生徒の割合は86.1%で、昨年度と比べると5ポイント低くなっている。生徒が「分かる」「できる」と感じたり、互いに肯定的評価したりする機会を創出していく必要がある。 指標②いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ふ生徒の割合、④避難する場所や仕方について理解していると考える生徒の割合は100%であった。引き続き、生徒が主体となる取組の充実を図る。 指標③地域や社会をよくするために何かしてみたいと思ふ生徒の割合は91.7%で、昨年度よりも10.7ポイント高くなっている。ダンスや音楽等の取組の成果を地域で披露する機会を積極的に活用することができた。	指標①について、自己有用感を高めるために、道徳や行事への取組を中心に、学校生活全体を通して、お互いのいいところを評価するなど、自信につながる経験を増やす。 指標②～④については、引き続き学校生活や学校行事の中で声掛けを続けていく。
*	安心・安全な教育環境の整備	① 教職員による不祥事の根絶 ② 働き方改革の推進	指標①日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の割合は100%であり、目標値の90%を大きく上回った。引き続き、職員間で困ったことや気づいたこと等を積極的に共有し、対話による風通しの良い職場づくりに努める。 指標②時間外在校等時間が月45時間以下の教職員の割合(3ヶ月平均)について、目標値を達成していない。年度当初は、学級数減少による職員数減の影響もあり、主任層を中心に時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の割合が前年度より増加している。	100%の教職員が「教職員で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気があると感じている」といった「強み」を生かし、引き続き、「対話による風通しの良い職員室づくり」を基盤として、ICTを活用した当事者意識を高める服務研修を実施し、不祥事の防止と働き方改革の推進により、安心・安全な教育環境の整備を進めていく。